

岡山作文の会会長賞

行動に移すこと

岡山県立津山中学校

一年生 保田千代

私は、中学生になって、バスケットボール部に入部した。バスケットボールは興味があつたけど、全然したことが無かつた。運動が苦手な自分には、ふれることもできないものだ、と、ずつと感じていた。本当に運動が苦手なのだ、

小学五年生の時、私は転校した。その転校した学校には、運動ができる人がいっぱいいた。水泳もいやだったし、運動会なんて地獄だった。さらに自分に自信がなくなった。でも、私は先生に、

「苦手な事から、逃げてばかりじゃあ、そのままずっと、何も変わらないよ。」

と、言われた。その日から、先生は水泳を毎日教えてくださっ

た。泳ぎ方も知らないのに、優しく丁寧に教えてくださった。そして、六年生になった。水泳記録会。これもまた、私にとつての地獄。それでも泳ぐしかなかった。どうせ泳げない。そればかりを頭でくり返した。でも、先生に、

「頑張れよ。」

と言われた。今までの練習を無だにするのは、いやだ。最後まで泳ぎきると決めた。

結果、それはおどろく結果であつた。今まで五十メートルを一分で泳いでいた。でも、その日は五十秒だった。逃げなくて良かった。必死に泳いで良かった。そう思った。

水泳は、出来るようになった。それでもやっぱり陸上となるといやだった。陸上からは、小学生の間逃げ続けた。足が遅い人は、頑張つたつてどうにもならないんだからと思ひ、逃げ続けた。

そのまま中学生になった。中学校では部活が始まる。私はもちろん文化部に入る気満々だった。音楽という得意な方へ進むつもりだった。一応、他の部も見学しに行こうと思ひ、バスケット部を見に行った。外を走っていた。

「走るなら、私はムリだ。」

と言っていた。「吹奏楽部」と入部届にも書いていた。

入部届提出期限の二日前。ヒマだし、うろろうしようと思いい、バスケット部へ行った。その日には、

「バスケット部入ろ！」

と言っていた一年生も、

「しんどいし、やめたあ。」

と言う人が多かった。その日は体育館で練習していた。体育館だしいいか、と体験へ行ってみた。予想外で、体育館でも走った。小学生の時と違い楽しかった。多分、先ばい方が優しくて、そんな先ばいと走るからだ。走るのが楽しかった。しんどいけど楽しかった。

私は決めた。今まで走るのがつらかったけど楽しかった。なら、今しか苦手と戦うときはない。入部届の「吹奏楽部」を消し、「バスケットボール部」と記入した。

そして今、バスケット部にいる。毎日大変だけどすごく楽しい。努力して上手くなれた時はうれしい。夏休み前、走るのがしんどくて自分に甘くなっていた。でもこれからは自分に厳しくなる。心も足も強くなりたい。三年間、苦手と戦う。

思ったことを行動に移した。だから今の充実した毎日がある。

行動に移すことは大切だ。思っているだけでは成長できない。

宇野千代さんはこう言っている。

「行動することが生きることである」

と。頭で考えるだけでは、何もしないのと同じなのだ。行動に移すから、キラキラした人生になる。小学生のときは、「走る練習しないとなあ。」と頭のすみで思っているだけだった。今考えると、バカだったなあと思う。でも今、行動に移している。行動に移したこれからも大切。行動に移したからには、最後までやりとげたいと思う。

人生において大切なこと。それは、行動に移し、成功させるために必死になることだと考える。

まだ課題があった。将来の夢。幼いころは、歌手だとか医者だとか政治家だとか、自由に言っていた。医者になんて私はなれっこない。そう思っている。こう思っていることはまだダメだ。やっぱり行動に移すのには勇気がいる。でもそこで行動に移すんだ！では、決めた。私の夢は医者だと言いきる。一〇〇パーセントなれない訳じゃない。行動に移せば可能性は広がる。なれなくなってもいい。行動に移して、私の人生キラキラしたものにしようじゃないか。

私は、これからコツコツ勉強していく。また、目標へ向かっている途中の部活も、忘れず両立させよう。頭の中で思ったか
らには、努力して最後まで向かうしかないんだ。

頭で考えて、行動に移せる。そんなキラキラした人生をこれから作っていく。